

中野区教育委員会会議録 平成20年第16回定例会

○開会日 平成20年10月31日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 7時02分

○閉 会 午後 8時35分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員長職務代理	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員	山 田 正 興
中野区教育委員会教育長	菅 野 泰 一

○欠席委員(0名)

○出席した事務局職員(7名)

教育委員会事務局次長	竹 内 沖 司
教育経営担当課長	小谷松 弘 市
学校再編担当課長	青 山 敬一郎
学校教育担当課長	寺 嶋 誠一郎
指導室長	入 野 貴美子
生涯学習担当参事	村 木 誠
中央図書館長	倉 光 美穂子

○書記

教育経営分野	松 島 和 宏
教育経営分野	吉 田 真 美

○会議録署名委員

委員長	高 木 明 郎
教育長	菅 野 泰 一

○傍聴者数 13人

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

・10/24 研究発表会(上鷺宮小学校)について

- ・ 10 / 25 特別支援学級連合運動会について
- ・ 10 / 25 谷戸小学校80周年記念式典について
- ・ 10 / 25 中野福祉クラブ10周年記念式典について
- ・ 10 / 26 沼袋地域センター丸山塚まつり「子どもワイワイ広場」について
- ・ 10 / 27 私立幼稚園「楽しい園児のつどい」について
- ・ 10 / 29 第52回中野区立小学校連合運動会(新井小学校・江古田小学校・東中野小学校・多田小学校・中野本郷小学校・北原小学校・鷺宮小学校)について
- ・ 10 / 29 第23回トリムのつどいについて
- ・ 10 / 29 中野区表彰式について
- ・ 10 / 30 研究発表会(第八中学校)について
- ・ 10 / 31 就学前検診(谷戸小学校)について
- ・ 10 / 31 東日本吹奏楽大会銅賞受賞報告(武蔵台小学校)について
- ・ 平成21年度当初予算区長調整について

(2) 事務局報告事項

- ①教育ビジョン実行プログラムの進捗状況について(教育経営担当)
- ②「親子への読書のすすめ」事業について(中央図書館)

午後7時02分開会

高木委員長

こんばんは。

ただいまから、教育委員会第16回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは初めに、夜の教育委員会について若干説明させていただきます。

この夜の教育委員会は、さまざまな理由のために昼間の教育委員会を傍聴しにくい方々に参加していただく機会を設けることを主な目的として実施しております。そこで、本日は、いつも金曜日の午前10時から開会している教育委員会を、時間を変更して午後7時から開会することといたしました。したがって、会議の運営は通常のエド育委員会と同じように進めてまいります。

なお、本日の教育委員会は、10月最後の教育委員会になりますので、最後に傍聴者発言の時間を設けさせていただきます。会議の運営にご協力をお願いいたします。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

高木委員長

本日は議決案件がございませんので、初めに、報告事項です。

<委員長、委員、教育長報告>

高木委員長

それでは、委員長、委員、教育長報告に入ります。

まず私から。

10月26日、沼袋地域センターで行われた丸山塚まつりの子どもワイワイ広場に行ってまいりました。これは、地元の小学校のPTA、それから町会、商店会などが協力して運営するイベントです。模擬店で焼きそばやフランクフルト、あと、車いす体験ですとか、昔遊び体験ということで、お手玉やこまなどが行われます。

私は、地元の沼袋駅周辺まちづくり勉強会のブースで、子どもに将来の駅の絵をかいてもらうというものに参画しました。沼袋小学校、江古田小学校、江原小学校、北原からも来ていましたね。200人以上の子どもたちに絵をかいてもらって楽しんでもらいました。

本来、野外劇場でいろいろなイベントがあるはずだったのですが、当日、あいにくの雨で、屋内、地域センター内に移りました。そこで緑野中学校のブラスバンドと沼袋小学校のブラスバンドの演奏がありました。オープニングでは田中区長もいらしてあいさつをしました。

続いて、10月29日水曜日、第52回中野区立小学校連合運動会の第5会場と第6会場に行ってまいりました。第5会場は新井小学校です。野方小学校、上高田小学校、沼袋小学校、新井小学校、4校の対抗で行われました。2校かけ持ちなので、前半の開会、それから準備体操、これはラジオ体操でした。あと、100メートルの短距離走。そのうちの男子Cと女子Cというのを見ました。A、B、Cというのは、タイムでざっくりそろえて、そのカテゴリーの中で競争するというので、一応、Cというのが一番早いチームということです。連合は6年生なのですが、沼袋小学校はほかの小学校に比べると約半分の児童数なのですが、少ないのもハンデにせず頑張っているのが目につきました。ここの短距離走が終わった段階で、今度は江古田小学校のほうに移動しました。こちらは、江原小学校、丸山小学校、江古田小学校の3校でございます。全員による綱引きと100メートル走、こちらは、男子、女子のA、それから、リレーを見ました。あと、整理運動ですね。

面積的にはそんなに変わらないと思うのですが、校地の取り方なのか、江古田小学校のほう若干トラックがきついんですね。リレーのところなのですが、リードしていて最後に転んだ女の子がいて、泣いていて非常にかわいそうで。先生がフォローしてくれていたとは思いますが、それがちょっと心に残りました。

あと、連合運動会は、子どもたちがほかの学校の子と交流する非常に大切な行事だ

と思っておるのですが、別の観点からいうと、先生方が他校の教員と連携してこういった行事をやっていくということで、言葉は悪いけれども、先生方の力が試されるというか、運営が非常に勉強になるので、これはすごくいい機会だなと思ったところでございます。

私からは以上です。

大島委員

私は、10月29日の連合運動会の第4会場に参りました。第4会場は、東中野小学校が会場として、桃園第二、塔山、中野昭和、東中野の4校の参加でございまして、鉢巻きの色をそれぞれ区別しているの、色ですぐわかるということです。なぜか準備体操がなく、いきなり始まりましたので、「あれっ？」とかいう声もありましたが、みんなでラジオ体操ぐらいをやると何か盛り上がったのかなと思ったりいたしました。

校庭の関係で、80メートルという若干短目のトラックでしたけれども、みんな自分の学校の生徒が出ると非常に盛り上がりまして声援をしたりして、大変盛り上がりましてやっております。80メートル走と綱引きとリレーというプログラムでございます。

あと、走るときの合図のピストルを普通は「バン」というのでやるのですけれども、ご近所から苦情があったそうで、電子ピストルとかいうのを使うことにしたそうです。「ポン」という音で、今までとちょっと感じが違うのですけれども、ちゃんとはっきり聞こえますので、なかなかいいかなと思ったりしました。初めて電子ピストルの「ポン」というのを聞きました。

それから、10月30日、きのうでございますけれども、第八中学校で行われました研究発表会を見に行ってみました。第八中学校は、平成18年から3年間、「生きる力とコミュニケーション能力の育成」という研究テーマで指定校になってございまして、3年がかりでコミュニケーション能力を高めようという研究、実践をしてこられた学校でございます。午前中に公開授業を拝見して、午後、体育館で各クラスそれぞれ1名ずつ、人権についての意見発表をします。その後で先生方の研究についての実践の報告がありまして、最後に講師の先生のご講演というプログラムでございました。特に午後の意見発表会で、1年から3年まで各2クラスずつ6名のクラス代表の子たちの人権についての意見発表は、非常にすばらしくてびっくりいたしました。1学期のうちから人権について授業でやったりして、下勉強というのを、夏休みに各自が人権についての作文を書いてくると。それで、9月になってから各クラスで発表して、みんなが一番いいと思う代表を選んで。

代表の子たちは、一応原稿はあるのですけれども、見ないのが原則で、大体暗記していて、語りかけるように発表するということなのです。テーマもいろいろバラエティに富んでいたのです。「地球温暖化」というテーマもあるし、「戦争と人権」という話もあるし、ある子は、同居している大好きだったおじいさんが病気で倒れて血を吐いたりするのを見て、ちょっと怖いという気持ちになって距離を置くようになってしまったと。それで、昨年亡くなったらしいのですけれども、そのことを踏まえて、今では、その距離を置いてし

まったということについて非常に後悔しているというようなお話ですとか。それから、別の子は、兄弟が4人いるそうなのですけれども、お母さんのおなかに新しい赤ちゃんができた。でも、お母さんが高齢出産なので、障害を持った子が生まれてくるかもしれないという不安を感じながらも、お母さんは産むことにした。その話を聞いて、きょうだいも、もしも障害がある子が生まれたとしても、ともかくきょうだいみんなで力を合わせて育てるのに協力しようというふうにみんなで誓ったとか、本当にきょうだいいいなど目頭が熱くなるようなお話もありました。それはことしになって障害のない妹さんが生まれたということだそうですけれども。特に体験を踏まえた話などは涙が出てしまって、みんな立派な発表態度だし、聞いている生徒も真剣に聞いていて、聞く態度もすばらしかったし、コミュニケーション能力の育成ということで学校で指導された成果が出ているのかなというふうにつくづく思った次第です。できれば、代表でないほかの子たちの発表も聞いてみたかったなというふうに思った次第です。

私は以上です。

山田委員

10月25日、特別支援学級の連合運動会が中野体育館で開催されました。特別支援学校に通う子どもたち200名近くが一堂に会しての運動会です。私たちは、朝、最初の1時間程度しか出られなかったのですけれども、子どもたちが「初めの言葉」をきちんとお話ししたり、また「児童・生徒の代表の言葉」などもしっかりやっておりました。また、例年ながら、二中と四中の子どもたちがボランティアとして参加しておりまして、特別支援の子どもたちと一緒にこの1日を過ごしたと思っております。

実はこの後、私は谷戸小学校の80周年記念が11時からあったものですから、そちらのほうに参りました。谷戸小学校は、ことしの5月6日で80年を迎えるということで、当日は、朝10時から児童たちの児童集会と称しまして1年生から4年生の子どもたちのいろいろなパフォーマンスがあったようですが、それは見られませんでした。11時から記念式典がありまして、それに参加し、その後、今度は体育館で式典があったのですけれども、その後、校庭で5年生、6年生の鼓笛の披露、それから「谷戸っ子ソーラン」と言いまして、6年生が町会の皆様方からいただきましたおそろいのはっぴを着てソーラン節を踊ることが谷戸の伝統になっているのですけれども、それを披露していただきました。

その間に式典をしました体育館を模様がえしまして今度は祝賀会に移ったわけですけれども、祝賀会には300名を超える方たちが参加し、谷戸のPTA並びに同窓会が結成したバンドや、合唱があったり、今までの歴史を振り返ったりということで、非常に盛り上がった祝賀会がございました。子どもたち、特に6年生は朝早くから準備に取りかかり、途中で自分たちの踊りがあったりして、また、最後の祝賀会でも合唱に参加したりということで、非常に忙しい1日を送ったのではないかなと思っております。いろいろな周年行事があるわけですけれども、子どもたちを参加させて一緒に祝うということでは、すばらしい

式典並びに祝賀会ではなかったかなと思っております。

祝賀会が終わりました後、同じその日に、「中野ふくし倶楽部」と言いまして、中野区で在宅介護の支援サービスを行い、なおかつ、チャイルドラインといった中野子ども電話をやっている福祉クラブが10周年を迎えたということで、そちらの会に行ってまいりました。3時から井上ひさしさんの原作で佐々木梅治さんという劇団民藝の方が『父と暮らせば』という1人劇をやったのですね。これは、広島戦後3年後の状況を1人で上演するのですけれども、いわゆる原爆が落ちたときトラウマになってしまった少女と、その原爆で亡くなったお父さんとの語りを1人でやるのですね。非常に感激した舞台といえますか、1時間ほどの舞台でしたけれども、そういった会がございました。

その後は、中野昭和小と新井小の子どもたちのどんどこ会というのですか、その太鼓の演奏がありまして、かなり勇壮な太鼓を聞かせていただきました。

その後、レセプションがありまして、この日1日は、朝うちを出てから、うちに帰ったのは夜8時ぐらいになりましたので、かなり疲れましたが、非常に楽しい1日を過ごさせていただきました。

29日は、ほかの委員と同様に、区立の小学校の連合運動会。実は連合運動会は八つの会場で開催するのですけれども、1会場を除いて全部この29日に行いました。先ほど大島委員のほうからは、準備体操がなかったところもあったようですけれども、多くは準備体操があって、その後、100メートル走が多いですね。あとは、綱引き。最近、学校の中での運動会では綱引きというのは余り登場しないのですけれども、連合運動会では綱引きがあります。これも各学校の人数のバランスをとっての綱引きがありまして、最後にリレーを行うことが多いですね。リレーも、僕が見ました第2会場などでは男女混合だったのですね。BチームとAチームとやるのですけれども、やはりAチームがかなり早くて、たしか1分52秒ぐらいのタイムで8人ぐらい走るのです。Bのほうはそれよりは若干遅くて、一番早いところでも1分58秒とかいうことです。その後、子どもたちは賞状を受けて終わりになるわけです。

6年生がみんな参加するわけですが、中野区の子どもたちが学校の代表として参加する会というのはこの連合運動会だけだと思います。また、6年生ですので、今まで学校の中で中心的に役割をしてきた6年生が恐らくこれを最後にあと半年の小学校生活を送ることになるかと思えます。ただ、今後、中野区では再編計画を進めておりますので、学校の組み合わせが少しずつ変わってくるかと思えますので、今後どのようにしていくかが大きな課題ではないかなと思えます。

実は、再編があったものですから、残ります第3会場のところは谷戸と桃花小学校だけの連合となりますので、連合と言うにはちょっと寂しいかなと思うので、やはり組み合わせの問題とか会場の問題を今後私たちとしていろいろ考えていかなければいけないのかなと思っております。

最後になりました。本日の昼間でございますが、私、谷戸小の学校医を務めておりますので、この時期、来年1年生になる子どもたちの就学前健診を行うわけでございます。多くの小学校がそうだと思うのですけれども、谷戸でも新しく入る方たちを5年生が一人一人誘導して、歯科の健診を行い、眼科の健診を行い、耳鼻科の健診を行い、内科の健診を行うということです。この5年生がやるというのは非常に意義がありまして、来年1年生に入ってきたときに最上学年6年生としてこの子どもたちを指導していくことになるかと思えます。そういった一歩として5年生が誘導したわけですが、きょうはやはり5年生はしっかりしておりまして、「先生の前ではきちんとお名前を言ってください。それも、『○○○○です』と『です』まできちんと行ってください。終わったら、『ありがとうございます』と言いましょ」というような指導をしていました。

ただ、残念なことに、予防接種のチェックをする欄があるのですが、いわゆる麻疹に関してのMR2期というのを就学前1年間に打つことができるのですね。打ったほうがいいわけですが、私がきょう行きました谷戸小学校では、62名が健診を受けたのですけれども、MR2期を受けていない子どもが24人ですね。かなりの数に上りまして、医師会のほうで用意しました「3月31日までにMR接種を受けてください」というものを保護者一人一人にお渡ししてご協力を得たところでございます。

私からは以上でございます。

大島委員

済みません。ちょっと一言いいですか。

申しわけありません。さっき報告を忘れてしまったことがございまして、済みません。10月25日、今、山田委員がお話しされた特別支援学級の連合運動会、それから谷戸小の80周年記念式典、私も山田委員と一緒に参加したのですが、そのことをご報告忘れてしましまして、大変申しわけありません。内容は、山田委員がお話しされたようなことでございます。

済みませんでした。

飛鳥馬委員

私は、24日に上鷺宮小学校の研究発表会に行ってきました。上鷺宮小学校は、19年、20年度の2年間、文部科学省の道徳教育の推進事業校になっておりまして、18年から19、20年は中野区の「特色ある学校づくり」の研究校ということで、同時並行して研究が進められてきたのです。

この上鷺宮小学校は、柱が二つあるのです。道徳教育を通してコミュニケーション能力を育てるということが大きなねらいなのですけれども、その道徳で扱うことが命なのです。人間だけではなくて動物を含めてすべてのものの命を大事にしようというテーマで、各学年、全校、研究して、そして子どもたちの授業を見てきたのですが、先生方は非常に熱心に研究されて、すばらしい授業だったと思います。子どもたちがただ聞いて感心する

というのではなくて、子どもたちに、「あなたならどうするの?」と迫る、考えさせる、発表させるというのですか、学年によっていろいろですけれども。机やいすを使わないでフロアにお座りしたりとか、両側に向き合って討論、ディスカッションするような配置だったり、いろいろあるのです。テーマも、心臓に機械が入っている子、生きてくても生きられない子がいるのだよという話とか、2年生ぐらいただと、隣の子同士胸に耳を当て合って、「心臓の音が聞こえるね」とか、実際に体験しながらいろいろなことでやっていました。

上鷲宮小学校は、私は校歌が大好きなのです。校歌に「いのち」という題がついていて、多分皆さんも1回ぐらいは聞いたり、見たりしているかと思うのですけれども、1番の歌詞が「おはようさん あら カタツムリ るん るん る るん るん」、2番の出だしは「こんにちは まあ ミズスマシ すい すい すいすい」、3番は「こんばんは やあ テントウムシ てん てん て てんてん」とか、非常におもしろい、子どもが好きになるような。これは結局、命なのですね。この学校の校訓というのですか、キャッチフレーズといったらおかしいのかな、「自然と命を守る学校」という大きいテーマで日常の教育を進めています。中野区にすばらしい学校はたくさんあるのですけれども、また1校すばらしい学校を見せていただきました。

あと、29日は私も連合運動会に行ってきました。北原小学校と鷲宮小学校の会場でした。内容は、80メートル走とかリレーとか綱引き等をやってございます。小学校ですので、試合というよりも、交流を含めて、あるいは運動だけではなくて応援も楽しむとかという、非常に楽しい運動会だったなと思っています。

以上です。

教育長

他の委員との重複をしないような形で報告させていただきます。

まず、今、21年度予算の調整をしております、区長のところで区長調整というのが行われております。今週から来週にかけて各部から出された二次経費、新規とか拡充の経費ですけれども、こういったものについてヒアリングをするものでございまして、それをもとに一定の結論を出すというふうなことでありますが、最終的な予算査定ではございません。教育委員会分の二次経費のヒアリングにつきましては、10月27日に実施されております。

それから、同じく10月27日に私立幼稚園「楽しい園児の集い」というのがありまして、こちらのほうに出ております。これは、10月27日から10月29日までZERO大ホールで劇団の劇が実施されております、それに区内の私立幼稚園のほとんどのお子さんと保護者の方が観劇するというものでございます。あの大ホールを使って5公演やるわけで、毎回大体満員になるというような非常に大々的な催し物でございました。そちらでごあいさつをしまりました。

それから、10月29日ですけれども、第23回トリムの集いというのがございました。

これは中野体育館でありましたけれども、トリムというのは、バランスを保つという意味のノルウェー語だそうでございます、トリム運動というのがあります、それを日本で健康体操というのをつくって普及しているというようなものでございます。中野区でも、23回ですから、もう23年こういった運動がございまして、各地域センターなどを会場にいろいろ集まってやっているようでして、当日は380人、中野体育館に集まっているいろいろな催し物をしておりました。一緒に体操したり、エクササイズをしたり、ストレッチをしたり、あるいはダンスとか、レクリエーションを楽しむというような、そんな行事なのです。どちらかという、やはり高齢者の方、女性の方が多い、そんなような催しでして、ユニフォームをそろえて非常に楽しそうにやっておられました。

それから、同じ10月29日ですが、中野区の表彰式がございました。中野区でいろいろ功労のあった方に表彰を行っているものでございまして、毎年やっております。ことしは表彰状が6名の方、感謝状が15名の方、合計21名の方に表彰状、感謝状が贈られました。そんなことで、極めて厳粛な感じで進んでおりまして、受けられる方もなかなか緊張されて受けておられたというものでございます。

それから、きょう10月31日、武蔵台小学校の校長先生と吹奏楽部のお子さん、それから担任の先生が報告に参られました。10月12日に第8回東日本学校吹奏楽大会で銅賞をとったという報告でございます。東京都の予選で金賞をとった2組が、全国大会というか、小学校の場合は東日本大会が最後なのですけれども、そちらのほうの吹奏楽大会に進んで銅賞を受賞したということで、表彰状、盾を持って報告に来られました。

それから、先週の土曜日ですけれども、10月25日に哲学堂運動施設でテニスをしているときに心臓発作で倒れられた方がおられました。その折に、指定管理者の職員がAEDを使いまして人命救助をして助かったと。その方はまだ入院はされておりますけれども、もう大分よくなられているという、そんな状況でございます。これも、指定管理者の方がきょう消防署から感謝状を受けられたということで報告に来られました。

私からは以上でございます。

高木委員長

それでは、それぞれの委員からの報告につきまして、ご質問、あるいはご発言がありませんでしょうか。

では、私から。

大島委員が八中の研究発表会に行かれて、コミュニケーション能力ということで発表があったと思うのですが、私のイメージですと、コミュニケーション能力というと、ディベートとか、そういう発表というよりも、何か対話的なのが中学生だと主なのかなという勝手なイメージがあるのです。例えば発表会で質疑応答みたいなのはあったのでしょうか。

大島委員

きのうの発表会自体ではそういうのは全くないのです。ただ、先生方の研究の実践報告

の中では、今おっしゃったディベートというのを授業の中で随分取り入れてやっているそうです。テーマを決めて、みんなで準備してやり合うというのは、きのうの発表会ではなかったのですけれども、授業の中でたくさん取り入れてやっているというお話がありました。

高木委員長

わかりました。

山田委員

先ほどの哲学堂のことでAEDですけれども、AEDがどこに設置されているかというマップなどは、中野区の中ではご用意されているかどうか、ちょっとお聞きしたいのです。学校には全部配置されていると思うのですけれども、区民が利用するようなところ、例えば区役所にもありますよね。そのマップみたいなものはあるでしょうか。

教育長

マップがあるのかどうか、確認しておきますが、区役所、地域センター、全学校、体育施設、文化施設、図書館もそうですね。いずれにしても、ほとんどの区立施設にはございます。AEDが配置されています。

使い方については、我々職員は、必ずAEDの講習を受けることになっておりまして、全職員が受けるということでやっております。

山田委員

ありがとうございます。やはりAEDというのは大きな武器だと思いますので、その使い方もそんなに難しくないのです、講習を1回受ければ大勢対応ですのでできるかなと思うのです。そういったことで、救急的なものがしのげたというのはすばらしいことではないかなと思います。学校にも配置されておりますけれども、今後、学校の中ではなくて、学校の外で起きたことにも対応できるようなことが必要だと思いますので、そういったご配慮があったほうがいいかなと思ひまして、ご質問しました。

あともう1点。私立幼稚園の公演、私もあの日たまたまZEROホールの前を通りましたら、自転車の数がすごかったのですね。何が起きたのかなと思うぐらい。それが終わったころですか、3時半ごろ、今度は、一齐に駅のほうに走っていくのですね。これは壮観ですね。今のお母様方、自転車でのことですが、ただ、ZEROホールの前にあれだけ置かれてしまいますと、安全上の問題があるのかなと思ひてちょっと心配しました。僕は何か起きたのかなと思ひてあの前を通って驚きました。

以上です。

高木委員長

ほかに質問がないようでしたら、事務局報告に移りますが、よろしいでしょうか。

<事務局報告事項>

高木委員長

それでは、事務局からの報告をお願いします。

まず、「教育ビジョン実行プログラムの進捗状況について」、報告をお願いします。

教育経営担当課長

それでは、教育ビジョン実行プログラムの進捗状況、平成 20 年度上半期分の実績につきまして、ご報告をさせていただきたいと思っております。資料に従いまして順番にご報告申し上げたいと思っております。

まず、10 大プロジェクトのうち、I 番目のプロジェクトでございます「幼児教育の環境整備」についてでございます。資料中ほどの「平成 20 年度上半期の実績」のところを中心にごらんいただきたいと思います。個別の事業ごとに進捗状況を見てまいりたいと思っております。

まず、幼児研究センターの設置についてでございます。これは既に昨年度設置されているものでございますが、今年度の研究といたしまして、「幼児教育関連施設における遊びの実態調査」、それから「中野の子どもの身体能力測定」をテーマといたしまして調査研究を進めてございます。これらの調査研究の成果につきましては、保育・幼児教育現場にその成果を提供いたしまして、今後の幼児教育の実践に活用していただくというものでございます。

それから、合同研究でございます。こちらのほうは、年間を通していろいろ研究を進めているのですが、今年度のテーマは「就学前教育について」及び「乳児期（3歳未満児）の保育」をテーマに今研究を進めてございます。こちらのほうは、公立、私立、それから幼稚園・保育園、それにセンターの職員なども加わりまして、各園からの具体的な実践事例などをもとに研究を進めているというものでございます。

次に、幼児教育から義務教育への円滑な接続でございますが、今年度は6月に保育園・幼稚園・小学校との連絡協議会を開催してございます。また、先ほどとテーマは重なりませんが、研究センターにおけます就学前教育ということで、この円滑な接続についてのテーマで研究を進めているという状況でございます。

2 ページのほうにまいりたいと思っております。

区立幼稚園の幼児総合施設への転換でございます。こちらのほうは、区と運営事業者、それから保護者によります三者協議会を上半期にやよいとみずのとう各園で実施してございます。なお、下半期につきましても、第 2 回目、第 3 回目の三者協議会の実施を予定しているところでございます。

それから、園舎の第 1 期の改修工事を夏休みの期間実施を図ってございます。これによりまして、10 月からでございますけれども、運営事業者によります子育ての支援事業、親子登園が開始されてございます。

次に、II 番目のプロジェクトでございます「豊かな心とコミュニケーション能力の育成」でございます。まず、コミュニケーション能力の基本となる力の育成というところでは、

先行研究の資料収集及び整理を図ってございます。「書く力」育成のための指導計画例、これは国語科と中学校の数学科でございますが——の作成をいたしてございます。

次に、体験活動の充実ということで、まず、自然体験ということでは軽井沢「遊々の森」の活用。これは、今年度は小・中6校が活動いたしました。職場体験ということでは、体験先リストの作成・配付をいたしまして、こちら中学校7校が実施を行ってございます。保育体験でございますが、中学生による保育体験の計画作成及び実施ということで、10校が実施いたしてございます。

3ページのほうにまいります。III番目のプロジェクトでございます「区立小中学校の再編」についてでございます。今年度20年度の統合といたしましては、もう4月に統合新校としまして桃花小学校及び緑野中学校が開設されてございます。それから、来年度21年度の統合に向けまして、中野昭和及び東中野小学校の統合委員会のほうが上半期に3回ほど実施されまして、校章、校歌、施設改修、統合新校のあり方などにつきましての協議が行われました。それからまた、通学の安全対策等につきましての説明会を6回開催してございます。それから、もう一つの統合でございます一中と富士見中のほうの統合委員会も3回ほど開催されてございます。同様に校章、校歌等々についての話し合い、協議が行われました。

それから、23年度の統合に向けて野方小と沼袋小の統合委員会でございますが、こちらにつきましては、統合新校の校舎建設についての新たな方針について協議が1回行われてございます。

それから、これからの課題でございます学校再編計画の改定に向けた検討につきましては、今年度20年度の統合新校開校におけます検証と素案の策定に向けた検討を進めているところでございます。

それから、IV番目のプロジェクト「確かな学力を育む」ということでございます。まず、2学期制の推進と長期休業日の見直しということでは、もう既にこれは全小・中学校に導入されてございますが、2学期制による教育課程の実施を図りまして、年間指導計画の工夫、あるいは長期休業期間を活用してのサマースクール、通知表の工夫、家庭訪問、三者面談及び個人面談等の工夫を行ってございます。

それから、連携教育の推進ということでは、理科における小学校教育研究会と中学校教育研究会合同実技研修によりますそれぞれの指導法の理解、人的交流を行ってございます。また、確かな「書く力」の定着を通した小・中連携カリキュラムに関する研究、それから体力向上に関します小・中合同授業研究による検証を行ってございます。

続きまして、4ページのほうにまいります。学校支援ボランティアの創設についてでございます。この学校支援ボランティアの考え方につきまして検討を進めてまいりました。これにつきましては、既に当委員会でご報告をさせていただきましたが、あわせて区議会へも報告を行ってございます。

それから、V番目のプロジェクトでございますが、「特別支援教育の推進」。これにつきましては、全小・中学校、それから幼稚園におけます巡回相談の実施、また、特別支援教育研修の実施を図ってございます。それから、七中の特別支援学級の整備工事の実施をいたしてございます。

それから、VI番目のプロジェクトでございます「健康の保持・体力の増進」ということで、まず、体力向上プログラムの策定・実施ということでございますが、全小・中学校が全学年で新体力テストを実施いたしました。それから、体力向上プログラム研修会を実施し、体力向上の理念や身につけさせたい体力・運動技能の習得を目指した運動例や授業モデルを示しました。また、各校に体力向上アシスタントを派遣いたしまして、授業での活用を図ったところでございます。

次に、食育の推進ということでは、各校に長期休業中に親子等生徒向け食事づくりの実践を展開するように働きかけを行いますとともに、各校の体力向上プログラムに食育を位置づけるような働きかけも行ったところでございます。

5ページのほうにまいります。

VII番目のプロジェクト、「生涯スポーツの環境整備」ということでは、小学校跡施設活用を想定いたしました事業の実施を図ったところでございます。それから、設立支援事業者との現地視察や定例会議を行いました。それからまた、設立提案書によりますアドバイスを受けたところでございます。また、仲町小跡施設近隣住民説明会を2回実施いたしてございます。また、開設準備協議会も2回ほど実施を図ったところでございます。

次に、VIII番目のプロジェクトでございます「文化芸術の創造・発信」ということで、まず、文化芸術活動の支援ということでございますが、中野区におけます文化芸術振興に関する基本的な考え方と具体的施策の検討に当たっての方向性につきまして、分野内におけるまとめを行いました。それからまた、区内の貴重な文化財としての建造物を把握するための「大正・昭和前期建造物調査」を実施いたしました。

次に、中野区ゆかりの作家・文化人などに関する文化資料の収蔵・展示ということですが、これは、ことし、井上円了の生誕150年ということで、中央館展示の企画案決定のことでございますが、共催団体との調整や展示資料調査・確定、実施の準備や広報など、上半期の期間において行いまして、これから展示及び講演等を実施するところでございます。

それから、IX番目のプロジェクトでございますが、「教員の人材育成」。まず、教育マイスター制度の導入ということで、今年度、教育マイスターの候補者8名の研修会を実施いたしました。それから、昨年、一昨年に認定されましたマイスターを講師とした2年次研修会、3年次研修会の実施を図ったところでございます。

次に、6ページのほうでございます。私学等との教員交流の推進ということで、東大の先生に三中の講師といたしまして、校内研修の指導をいただきました。それから、東大附属の教諭に、同じく三中の校内研修にて、学級を使って授業の実施を図ったところでござ

います。それからまた、同じく三中ですが、宝仙学園の副校長がやはりこの三中で学級を使った授業を実施いたしました。

それから、将来の教員の人材育成ということで、まず、学校スタッフの配置でございます。これにつきましては、小学校 6 校、中学校 4 校に配置をいたしました。また、目白大学の学生の観察実習の実施でございますが、小学校 26 校で 31 名が実施をいたしました。また、同大学・大学院生によります臨床実習の実施ということで、小学校 4 校で 9 名が実施をいたしました。

最後に、X 番目のプロジェクトということで、「学校環境の整備」でございます。まず、バリアフリー化の推進ということでは、今年度 3 校でバリアフリー化の工事を実施いたしました。

次に、校庭の芝生化でございます。今年度は、中野神明、中野本郷、啓明、江原の 4 校で芝生化の実施を図りまして、あわせて、各校に維持管理組織の立ち上げを行いました。

7 ページのほうでございます。教育情報環境の整備ということでは、これは校内 LAN の導入に向けました準備を進めてまいりました。なお、この導入、運用につきましては、これから下半期の事業ということで具体的に作業に入っていくこととなります。また、夏休みの期間を利用いたしまして、情報セキュリティ研修会を実施いたしました。

最後に、学校安全対策の充実ということでございますが、各小学校におけます地域住民、保護者と連携いたしました登下校時の安全対策の実施を図るとともに、また、各小・中学校におきましてセーフティ教室を実施いたしましたところでございます。それから、既に導入されてございます防犯カメラ、施錠システムについて、継続的に安定的な運用を図っているという状況でございます。

以上、上半期分の進捗状況ということでご報告をさせていただきます。

高木委員長

それでは、質問なのですが、ボリュームがありますので、まず、1 ページ目の I 「幼児教育の環境整備」、2 ページ目の II 「豊かな心とコミュニケーション能力の育成」の 2 ページで何かご質問等ありますでしょうか。

山田委員

体験学習のことでお尋ねしたいのですけれども、「職場体験」の下に「保育体験」というのもあるのですけれども、職場体験の中で保育所を体験するということと、保育体験とは全く別の授業体系になっているのか、その辺をちょっと教えていただきたい。それから、保育体験というのは、計画の中で 1 年間を通じたことなのか、1 回だけの保育体験なのか、その辺も教えていただきたいと思います。

指導室長

職場体験と保育体験でございますが、職場体験で保育園に行く学校もございますし、この場合、分けておりますのは、家庭科の授業等におきまして保育体験ということで授業内

容にございますので、それをやる学校があるということでございます。1年間を通じて随時というわけにはいかないのですけれども、保育体験の場合には、1日ということではなく、間を置いてもう1回行くとか、長くて2回ぐらいだったというふうに思っております。

山田委員

少子化が進み、きょうだいも少なくなってくると、異学年というか、異世代交流という形での保育体験は非常に意義があるのかなと。就学児健診のときも、5年生と、今度1年生に入ってくる子どもたちが出会うわけですね。こういうことも非常に大切で、そういったことからいろいろなことが生まれてくるのです。特に中学生レベルですと、もしきょうだいがいなければ、赤ちゃんを見ることもないだろうということで、そういった意味での保育。最初は話が通じないわけですね。言葉が通じない。そういった意味での保育体験というのは私としては非常に貴重な体験であるし、こういったことで、コミュニケーションということだけではなくて、生きる力ということにも携わるようなことであるので、保育体験などが充実できればなと思いますけれども、授業課程の中ではなかなか難しいのかと思いつつ、ぜひ進めていけたらなと思っております。

高木委員長

今の件ですと、大きくいうとキャリア教育と言われる流れの中の一つなのかなと。山田委員がおっしゃったように、保育の場合は、ビジネスキャリアだけではなくて、ライフキャリアにもすごく関連してくるところなので、これは物すごく大切なのかなと思います。

ちょっとお聞きしたいのですが、「体験先リスト」とありますけれども、現状で何社ぐらいここに入っているのでしょうか。各学校で、立地条件ですとか、校長先生の在職年、中野にいる期間とかで、地元の職場体験の企業さんとかがなかなか確保できないケースがあるのかなと思うのですね。どの職種がいいとか悪いとかということではないのですけれども、やはり受け入れやすいところにどうしても偏って行って、ファストフード関係ですとか、コンビニエンスストアという学校が多いと思うのですね。そこが悪いとか、そういうことではないのですけれども、例えば、お金がかかりますけれども、もうちょっと将来の職業を考えるような企業も教育委員会のほうで一括して発掘してやってあげると、各学校の負担も少し楽なのかなという気がするのですけれども。その意見、感想の部分は別として、大体何社ぐらいのリストになるのでしょうか。

学校教育担当課長

ちょっと手持ちがありませんので、大体十数社——十数社ではないですね。官公庁もありますので、全部で50ぐらいですかね。ですので、民間のほうは半分以下ということになります。

高木委員長

50ぐらいのリストを各中学校に配るという感じですか。

学校教育担当課長

はい。中学校で配っているということです。

高木委員長

ボリューム的にはちょっと弱いかなというところですね。

飛鳥馬委員

毎回同じことを言いますが、今の体験学習のことで言いますと、子どもたちが体験が少ないので体験させようという発想できていると思うのですが、そこに「キャリア教育」とか。それはそのとおりで、やっていいと思うのですが、今委員長が言われたように、職場体験先を探すということについては、少ない学校に対しては教育委員会としてもバックアップして探したり、労を惜しまないで一緒にやるという姿勢は非常に大事だと思うのですが、もう一つの視点を忘れないでほしいと私は毎回言っているのですが、それは何かというと、地域の方にお世話になるということは、地域と学校がつながるということですので、「こういうところがありますよ」と用意して、「はい、そうですか」と生徒を送り込むというふうなスタイルですと、なかなか結びつきにくい。ですから、地域にお願いするときに、私がやってきたことというのは、校長とか副校長が足を棒にして探し歩くのではなくて、地域の商店街の会長さんとか、学校支援のボランティアの団体とか、そういう方をお願いして探してもらう。ワンクッション入るのですね。そうすると、ここでやってくれる、あそこでやってくれるということで。私の場合には、ここに持ってきてくれた。そうすると、子どもたちが実際に体験している日まで行ってくれるのですね。「あっ、頑張っているね」とか、「ちょっと様子を見に来たよ」と。そうして初めて学校と地域とつながって、おらが学校だ、うちの地域の子もだ、大事に育てなければと、そういうところにもねらいを置いてほしいということが私の願いなのですね。ただ探して、「はい、〇〇です」とあてがえるだけではなくて。ちょっと大変なことでもありますけれども。

学校教育担当課長

たしか商店会等、区全体としても「こういうことに協力していただけないか」といった場合でも、過去やったのですが、なかなか難しいところもあります。委員おっしゃるとおり、もちろん学校に任せるだけではなくて、また、今、そういう地域のボランティアを学校にというようなお話も進めておりますので、その一環としてでも、そういった働きかけを今後とも続けていきたいと思えます。

大島委員

一番初めに書いてあります「幼児教育センターの設置」ということに関連して、ちょっと勉強不足のせいか、わからないので教えていただきたいのですが、

今、たしか私立の幼稚園の先生も含めた幼稚園の先生の団体で幼児教育の研究会をやっているかと思うのです。そういう幼稚園の先生方の研究会というような組織もあるわけですが、ここで言っている研究センターというのはどういう位置づけなのかということ。

一方、子ども家庭部のほうでは、キッズ・プラザとかをこれから運営していこうという

ことで、子ども家庭部としての子育て支援という活動があるかと思うのです。それで、今度、区立の幼稚園の4園のうち2園が認定こども園ということで、幼稚園と保育園の両方の機能を持ったようなものができると思うのですが、それらの関係が、子ども家庭部との連携ということもあるのでしょうけれども、それらとこの幼児教育センターというのがどういう位置づけになるのかというのがわからないのですが、教えていただければと思います。

教育経営担当課長

最初にお話が出ました私立幼稚園との合同研修といいますか、それにつきましては、中野区幼稚園教育研究会、通称「区幼研」と言っておりますが、そういった研究組織がございます。この幼児教育センターと申しますのは、子どもたちの多くは、実際には幼稚園、保育園に通園している子どもが多くいますけれども、私立、公立であろうが、あるいは幼稚園、保育園であろうが、要するに就学前の幼児すべての保育環境、教育環境といったものを全体としてレベルアップを図っていく、中野区の幼児環境の向上を図るということで、実際に幼児教育とか保育の現場に対するサポートをやっていくということで、そういった幼児教育、保育にかかわりますさまざまな課題につきまして、私立、公立等々、あるいは幼稚園、保育園の垣根を超えて、共通課題についての研究をし、それを各実践の現場に戻して共有を図っていくというようなことが大きな使命といいますか、役割というふうになっております。

それから、子ども家庭部との連携ということでいえば、この幼児教育センターそのものにつきましては、所管という意味では子ども家庭部が直接この所管となっております。具体的には幼稚園、保育園分野というところが深くかかわりながら所管しているところなのですけれども。ただ、実際に幼児教育の内容につきましても、こういった形でいろいろ研究を進めておりますので、当然、教育委員会と子ども家庭部との連携というのも重要な役割になってくると思いますし、その研究成果がどういう形で幼稚園の実際の教育現場の中に生きていくのかということもございますので、そういう意味では、いろいろな面で連携を図っていくということは非常に大きなキーポイントかなというふうに思います。

高木委員長

それでは、3ページ以降に移りたいと思います。3ページのIII「区立小中学校の再編」、IV「確かな学力を育む」、それから4ページのV「特別支援教育の推進」、VI「健康の保持・体力の増進」と、3～4ページに挙げられた項目につきまして質問がありましたら、お願いいたします。

山田委員

IVの「確かな学力を育む」ということで、2学期制につきまして、今年度から小・中全校実施ということになりましたが、その中に書いてある内容で、「長期休業期間を利用したサマースクール」は常葉のことをおっしゃっているのですか。—違いますね。各学校

のことですね。それをちょっと教えていただきたい。

それから、長期休業があるところで、私たちが一番心配していたのが、三者面談の期間をしっかりとやりましょうということがあって、そういったことがいろいろ検討されたと思うのですけれども、実際にその三者面談ということとか個人面談、ここに「工夫」と書いてありますけれども、実際にどのような工夫がなされたのか、教えていただければと思います。

指導室長

「長期休業期間を活用してのサマースクール」という書き方ですが、「サマースクール」と書いてあるので、ちょっと生涯学習のほうと一緒にしてしまうかもしれませんが、いわゆる補充・補習教室というものでございます。中学校においては全校行われておりますし、小学校においてもほとんどの学校で行われている状況でございます。長いところでは10日以上、いわゆる2週間にわたってぐらいの長さをもって補充・補習教室をやっている学校がございます。夏休み前と夏休み後の合わせた前期というものを夏休みでどうつないでいくかということと、充実していくかということで取り組んだ成果だというふうに思っております。そして、前期といいますか、夏休み前までの学習の状況をどのように知らせていくかということで、学校の工夫としては三者面談や個人面談、学校によっては家庭訪問ということをお小・中学校全校で、形は学校で工夫してですが、行ったということの報告を受けております。

飛鳥馬委員

質問というよりも、変な話なのですからけれども、どう考えたらいいか、ぼやきというか、皆さんの意見があったら聞きたいなと思うのですが。

今の2学期制のことなのですからけれども、この前、井の頭線に乗りましたら、ちょっと変な話を聞いたのです。私が座っている隣の隣ぐらいに60歳ぐらいの女性が二人座っていて、「きょうは、子どもたち、休みなんですよ。このごろ、秋休みというのがこのごろあるんだね」「だから、だめなのよ。学力が落ちちゃうのよ」というふうに言っているのです。ああ、そういうふうに結びついているのかということに私は思ったのです。お孫さんがいるのかもしれませんが、保護者の方であればそういう解釈はしないと思うのですけれども、休みが多くなって学力が落ちたと。結局、マスコミで日本の子どもたちの学力が世界と比べて落ちたとか、大学生が分数がわからないで予備校の先生が教えに来ているとか、そういうものと結びついているのだと思うのです。要するに、何が言いたいかというと、多分、中野の方でもそういう方もいらっしゃるかもしれないし、お子さんが直接今いない方の場合には、2学期制というのは余りわからない。休みが多くなったぐらい。それで学力が落ちてしまったという、割と単純な結びつけ方をしているのが多いのかなという気もするのです。そこで教育委員会として何ができるのかなど。宣伝が足りないのか。学力のことについても言いたいことはいっぱいあるのですが、ここで学力論争を

やるつもりはないのですけれども、単純な現象面で、今2学期制のことが出てきたので、何かそういう話を聞いたことがあるのでどうしたらいいのかという、そういうぼやきなのですけれども、どうでしょうか。

指導室長

実際に夏休みを2学期制にせずに短縮しているような区市もございまして、実際問題としまして、いろいろお問い合わせもございまして。中野区としては、2学期制を導入すると同時に、夏休みの短縮も行っているということ、それだけではなくて、ちゃんと授業時数も確保しているというお話はその都度お話をしてくれているところでもございまして、「教育だより」等でも、また保護者の方だけしか目に入っていないかもしれませんが、リーフレット等でもお話をしてくれているところでもございまして。ことし1年終わりましたら、ここに書いてございましておりに、アンケート等その成果もしっかりと確かめて、またそういう面でのPRもしっかりとしていきたいなというふうに考えております。

高木委員長

うちは今小学校4年生の子どもがいますので、今までなかったのですが、ことし初めて家庭訪問というのがありました。私は仕事上あれなのですが、妻は結構緊張しまして、家がきれいになっていいなど。まあ、手伝わされましたけれども。

2学期制に関しては、大学や短期大学はほとんど2学期制ですので、私は2学期制のデメリットというのを余り感じないのですね。むしろ、2学期で、各自治体や学校で工夫してある程度カリキュラムというか行事が組めるというのは非常にいいと思うのです。ただ、最近の新聞報道で、2学期制をやめる自治体の一部が出始めたということがありますので、決めてしまったからずっとこれでいくということではなくて、今指導室長が説明されたように、PDCAでちゃんとチェックして、区民の方の意見も聞いて、問題点があればそこを考えるとというのが必要だと思います。

大島委員

「連携教育の推進」という項目があるのですが、小学校と中学校の教育を連携してやるというのは大変いいことだと思っているのです。これをもっと組織的にといいますか、体制的に全校的に進めるというような動きというのはどうなのでしょう。それとも、ちょっと試験的にやっているという程度のことなのでしょう。ちょっとその辺を教えてください。できればと思います。

指導室長

幼児期から小学校ももちろん考えておるのでございましてけれども、小学校と中学校の連携に絞ってお話をいたしますと、いわゆる中1ギャップですとかという部分については、学習面ですとか生活の面でも一つの課題になってきているのは本区においても同じ状況がございまして。ギャップはあっていいのだと思うのですけれども、そういうものをいかにしてなだらかに接続していくかということがやはり大きな教育効果を上げる方法の一つであ

ろうということで、連携教育ということを研究し始めております。議会等におきましては、施設一体型の一貫校を連携教育と言っている場合もございますけれども、私どもとしては、内容的な連携をしっかり図っていくということで研究を始めているところでございまして、その具体的な教科において、学習指導要領も変わりますし、教科書も変わることで、しっかりとした指導法ですとか内容の接続ですとかという部分を着実に実績を積み重ねまして、全校で取り組めるように考えているところでございます。

大島委員

ということは、研究を始めているということで、その実績というのはこれからというふうなことで理解していいわけですね。

山田委員

これからの一つの大きなテーマは連携教育だろうと思うのですね。では、どういうイメージがあるかという、教員同士の交流から入る。それは教科ごとでもいいと思うのですが、例えば小学校の高学年のときに教科担任制をしることだって考えられる。そのときに、中学校の先生方のノウハウを借りるということもできなくはないかなということで、今、室長がおっしゃったように、一体型のものを区内に設けようということも考えなくはないけれども、なかなか大変ですよ。そうすると、少なくとも連携についてのノウハウをこれから一緒に勉強していかなければいけないということで始めたというふうに僕は理解していますし、最初のほうの「幼児教育」のところも、保・幼・小という形での連携が、これからは例えば特別支援などのことに関しても、そこも大切なことだと思うのです。俗に言われている小1プロブレムとか、中1ギャップというものに対して、その壁を取り壊していこうということで、公立の小・中学校の連携を図っていくということではかなり大きな前進。こういうことも検証していかなければいけないのかなと思うのですけれども、そういったことが大切なのではないかなと思って、これから私たちもこの連携ということの一つのキーワードで、いろいろなところで評価しながらまた検証していくことが必要なのではないかなと思っています。

飛鳥馬委員

今の連携教育のことで言いますと、3ページが一番下の「連携教育の推進」のところに、体力向上のところでモデル事業のことが書いてありますが、これはフラッグフットボールのことかどうかわからないのですけれども、小・中で共通できるものという意味で挙げているのかどうかですね。それともう一つは、4ページのほうにも体力向上プログラムがありまして、そののところにもモデル事業というのが出てくるのですね。これは違うことかどうか。ちょっと具体的にお示しいただきたい。

指導室長

3ページと後ろのページは内容的には同じものでございまして、中野区の体力向上プログラムの中の目標と持っております部分について、いかに授業で高めていくか。生活面と

体力テストの面のいわゆる身につけたい体力と、学習指導要領上に置かれております身につけなければいけない技能ですとか、そういうものを中野区の目標として置いてございます。その中の学習指導要領上で記載されております技能ですとか、能力ですとかという部分を身につけさせるための授業のモデルを研究しているというところでございます。実際には、この二つについては、ことし行われましたのは、小学校低学年のマットの部分。小学校の場合は「マット運動」というふうには言わないのですけれども、具体的にはマット運動の授業と、中学校の高跳びの授業の実践を通しまして、跳ぶ力をつけるとか、転がったりとか、調整力をつけるための授業のモデルをつくり始めているということでの実践でございます。小・中合同での研究をして検証していているというところでございます。目標としては、10以上の授業モデルをことしじゅうに幾つかつくっていただければなというふうに考えているというところでございます。

高木委員長

私から1点。区立小・中学校の再編のところなのですが、「通学の安全対策等についての説明会の開催(6回)」とあります。これについては、今回の学校再編ではかなり議論になったところだと思うのですね。ここのは、レジュメですのでこういう書き方になるのかなと思うのですが、もうちょっと書きようがあったのではないのかなということと、あと、「20年度下半期の取組み予定」のところこれが入っていないのがちょっとまずいと思うので、ここはやはり継続して、統合までの間、ほかのこともありますから、細かいことを一つ一つ書いていくといっぱいになってしまうと思うのですけれども、今回の再編の一番のポイントだったはずなので、これは、ここに書いていないけれども、あるという理解でよろしいのですよね。

学校再編担当課長

今のお話の中で、まず、上半期のところの説明会の開催ですが、基本は、通学の安全対策ということでしたが、それ以外に、新校開校に向けてのさまざまな事務手続的な説明内容というのを入れたものを含めまして、合計6回行ったところでございます。下半期につきましては、私どもとして考えております安全対策の実施段階に入っていくということを考えておまして、今後、実際に警察の方に同行していただいて、PTAの方等と一緒に通学路の安全検証ですとか、そういったようなことを行っていくということを考えておりますので、その辺のところまで下半期の予定のところには入れていなかったというところはちょっと改善点というふうに思っております。

高木委員長

統合委員会の方、必ずしも中野昭和小、東中野小だけではなくて、ほかにももう一組組み合わせがありますし、もちろん、これから進行する再編の場合でも、通学の安全というのは重要なテーマだと思いますけれども、これについては着実に下半期も実施するという理解でよろしいのですよね。

学校再編担当課長

おっしゃるとおりでございます。

高木委員長

それでは、残り3ページのところ、「生涯スポーツの環境整備」「文化芸術の創造・発信」「教員の人材育成」「学校環境の整備」について、ご質問がありましたら、お願いします。

大島委員

教育マイスター制度に関連すると思うのですがけれども、最近、いろいろな学校を拝見しまして、授業が大変上手な先生というのがいらっしゃるのだなというのをたびたび目にすることがあるのです。きのうも八中の音楽の授業が、先生が物すごく上手で、コーラスをやらせるのですが、初め余り声を出していなかったのが大変乗りがよくて、ぽんぽんぽんぽんいろいろなことを言って、「声がよく出ているね」とか、「ちょっと姿勢が悪い」とか、「はい、じゃあ、こっち、出してみよう」とか、乗せて、どんどん声を出せるようにしていくというか、その先生の言葉に乗せられて、みんな歌うほうに集中してしまうという、すごく上手な授業で感心したのです。ちょっと前にお話しした、1年生の算数のうまい先生とか、社会科のマイスターの先生とか、そういう上手な先生がいらっしゃるわけですが、授業というのはやはりパフォーマンスだなと。何もパフォーマンスが派手なのが上手というのではないのですが、みんなの心をつかむことが必要だなというふうに見ていてすごく実感して、上手な先生の授業を受けられると、学習への興味もわくし、学習成果も上がると思うので、ある意味、上手な先生を受けられた子は幸運だし、下手な先生のだと損をしてしまうみたいな、そういう不公平も子どもさんたちに大変申しわけないと思いますし、そういうノウハウというか技術というか、経験にもよるとは思うのですが、そういうようなことで、研修を積んで、生徒の心をつかむ上手な授業ができる先生をふやすように教育委員会としても何かできたらなと常々思っていたところですので、ちょっと意見を言わせていただきました。

飛鳥馬委員

その後をちょっと引き続きます。大島委員のご意見だけでも、私はそのところで、教育マイスター制度が生まれたのかどうかですね。というのは、何を言いたいかというと、音楽のマイスターがいましたよね。そういうマイスターになった人が研修を積んで、区内の音楽の先生を集めて研修して、そういうふう to 育っていったのかどうか、その辺のところを知りたい。

指導室長

マイスターの候補は、今、研修をしてもらっているところがございます、マイスターになった者については、2期にわたっているわけなのですが、その人たちは、1年目、2年目の若手の教員の研修のほうに授業を見せていただいたり、研修に講師として来ていただいたりということで、今、具体的には活用しております。さらに、授業公開を必ずやっ

てもらおうということで、今、長期授業公開のほうも、単発的な授業でなくて、望めば全部。地元の方や保護者の方もですが、望めば、教員も長期的に1単元は見られるようにという意図もございまして、長期授業公開制度の中での長期授業公開もやってもらおうということで、区内全体でそういう面では活用していくということで行っているところでございます。

大島委員

このマイスターになるというのは、自分から手を挙げて、例えば応募したりして候補者になるのか、あるいは、そういう選考方法というのはどういうふうになっているのでしょうか。

指導室長

現在のところは、校長のほうから推薦が上がってくるという形をとっております。もちろん、学校内で本人が手を挙げて校長が推薦をしてということがあるかというふうに思っております。それで手を挙げてきた教員については、1年間、大学の教授等から新しい指導技術をさらに教わるとか、教授によっては大学の自分の授業のほうにも参加させるというような方法をとっている教授もございまして、そういう中で研修を積んで、最後には研究授業のような授業をしてもらい、その教授、それから学校の校長、そして指導主事が見まして評価をしまして、マイスターとして認定していくというような形をとってございます。

飛鳥馬委員

要望で言いますと、これはぜひ充実させてほしいなと思っているのです。それは、今、小学校の先生はほとんど若返っていますよね。団塊の世代の先生がやめていってしまった。中学校がことしぐらいから始まっているわけですね。若い先生がどんどんふえるわけですね。そうすると、ベテランの先生のそういう技術をぜひ継いでほしいなというふうに思っています。

山田委員

お尋ねなのですが、18年度、19年度の教育マイスターの講師となられた方の小・中別の数はわかりますか。

あと、今回の候補者8名についても、小・中学校の別がわかりますか。

指導室長

済みません。合わせてのお話になってしまいますが、18年度は、小学校は6名で、中学校が2名という形になっております。19年度は、小学校が2名で、中学校が3名でございます。20年度が、小学校が2名で、中学校が6名という形でございます。合計しますと、今年度末には中学校は11名、小学校は10名の21名になるかというふうに思います。この3年間でちょうど同じぐらいの数になると。

山田委員

「生涯スポーツの環境整備」ということで、地域スポーツクラブの設立支援事業者から

のアドバイスはどのようなアドバイスがあったのかを教えてくださいということと、地域スポーツクラブについては、公益法人を目指すということでしたが、その進捗状況を教えてくださいと思います。

生涯学習担当参事

まず、アドバイスでございますが、仲町小学校跡施設地域スポーツ設立提案書という形で、中間報告がそろそろ出される段階でございますが、大きく二つの章立てになっておりまして、仲町小学校跡につくる拠点施設の基本設計をするに当たってどういう種目があの学校跡を使って可能か、それから、それに対してどの程度の設備・備品等で予算がかかるのかといったようなことがまず一つでございます。もちろん、先ほどもありましたように、6回程度、それぞれの専門領域の人が仲町へ行きまして、現地をつぶさに見ながらそういう提案をしていただいています。ただ、これはあくまでも提案ですので、これからこの提案をもとに開設準備協議会や地元の住民の方々、それから議会その他、そういったところのご意見等をちょうだいしながら整理をしていく、そういうものです。

もう一つが、地域スポーツクラブの運営と組織に関する事項ということで、これは私どもが整理をいたしました地域スポーツクラブ構想をそのベースに具体案の提示を一つ一つしていただいているという関係でございます。これはまだ、そういう意味では整理中というものでございます。その中で、今お尋ねの組織の関係でございますけれども、これはこの12月に公益法人改革法がスタートするというところで、実はまだ具体的な内容等について不確定な部分が多いということから、その12月を待って研究を深めていこうという段階でございます。ただ、一般社団と財団のいずれかでスタートすることになりますけれども、この支援事業者からは、いわゆる会員が中心になって動かす、これは法人格ですので、一般社団法人でスタートすることが望ましい。ただ、その場合に、今の不透明な要素がありますので、現時点では、場合によったらNPOを取得した上で将来公益法人化を目指すのも一つの手ではないかといったようなレベルになっております。

山田委員

民法が改正されての公益法人というもののスタートが12月1日ということで、私もいろいろ勉強しているのですが、公益法人のハードルはなかなか高いと思いますね。一般社団の中の公益法人というのがあるのですが、それも、公益性については、公益性の計画書を出さなければいけないとか、いろいろ縛りがありまして、その書式も11月1日にメールでアップされているのですが、相当数のものがありますので、これからかなりいろいろ勉強されないとなかなか難しいのかなど。どちらにせよ大変だなというふうに感じております。

ありがとうございました。

高木委員長

あと、よろしいでしょうか。

それでは、次に、「『親子への読書のすすめ』事業について」、報告をお願いします。

中央図書館長

お手元の白い資料と黄色いご案内のチラシの両方をごらんいただきたいと思います。

図書館では、平成 19 年 2 月に策定いたしました「中野区子ども読書活動推進計画」に基づきまして、これまで学校や地域や図書館などさまざまな場面で子どもの読書の環境整備に努めてまいりました。平成 18 年度からは、地域での読書環境の整備の一環といたしまして、区南部の川島商店街振興組合と共同で「親子への読書のすすめ」の事業を実施してまいりましたが、今年度は、川島商店街のほか、新たに北部の都立家政商店街振興組合とも別個に事業を共催することとなりましたので、ご報告させていただきます。

今回の都立家政商店街の事業の内容でございますけれども、商店街が持ちます家政会館というイベントの可能なスペースの中に、絵本の読み聞かせですとか、児童図書の展示のコーナーなどを設置して、商店街に買い物に来る保護者、あるいは保護者と子どもに読書に親しむ機会をつくろうというものでございます。

具体的な日程といたしましては、都立家政商店街のほうは平成 20 年 11 月 27 日木曜日から 30 日日曜日までの 4 日間、川島商店街のほうは平成 21 年 2 月 5 日木曜日から 8 日の日曜日までを予定してございます。

今回の都立家政商店街の事業の特色といたしましては、一つには、同じ商店街の中にあります洋書絵本を専門に取り扱うお店のご協力により、ネイティブスピーカーによります洋書、主に英語になりますが、この絵本の読み聞かせを行うことになりました。また、地域の朗読の会ですとか、まだ会としてというよりは自主的な動きとして若宮小学校の保護者によります読み聞かせが近年行われているようですが、その方々のご協力により地域のボランティアということで当会場で読み聞かせを行っていただきます。

また、区立図書館の利用者カードの発行のための仮登録もその場で期間中受け付けをし、会場に一部展示いたします図書館の資料もその場で貸し出しをし、お持ち帰りができるような形を考えてございます。

これらの事業を通じまして、図書館といたしましても、親子への読書の普及と図書館の PR、さらには商店街の振興に微力ながら尽くしてまいりたいと思いますので、今回ご報告をさせていただきました。

高木委員長

質問がありましたら、お願いします。

飛鳥馬委員

この図書館の取り組みはなかなかいい取り組みだと思うのです。子どもたちの住んでいる身近なまちの中でやってくれるところに大変意義があると思うのです。私、昨年初めて川島商店街を一緒に見に行ったのですけれども、なかなかいいなと感心して帰ってきたのです。今度、都立家政商店街もことしはできるということですが、それはどんな経緯で、

どうしたら広まったのでしょうか。その辺をちょっと教えてほしいのですけれども。

中央図書館長

幾つかきっかけというものがございました。まず、区内の商店街連合会の会長をされている方が中野区の図書館運営協議会の委員のお1人になっていただいております、そんなことから、私ども、産業振興分野との連携を深めていこうという動きをしておりまして、その商店街連合会の会長さん経由で、都立家政商店街で何かできることがないか、理事長さんを中心に考えていらっしゃるというお話をいただきました。

もう1点は、この洋書絵本の専門店ですけれども、こちらは平成19年度に中野区の産業振興分野が所管する商店街地域コミュニティ等推進事業という事業の支援対象に選定された事業者でございます。具体的には、商店街の空き店舗を活用いたしまして、地域とのコミュニティの推進を図ろうとする事業者に対して、区が一定の経済的な支援を行う事業でございますけれども、この事業者は、その申請段階から、絵本を媒介として世代を超えたまちづくりに貢献したいということで、今回の事業協力についてつながったという側面もございます。

高木委員長

よろしいでしょうか。

ほかに報告はありますでしょうか。

以上で、本日の日程をすべて終了いたしました。

ここで、傍聴の皆さんに11月の教育委員会の開会予定についてお知らせいたします。

来週11月7日は午前10時から、いつものとおり、この場所で教育委員会の会議を開会いたします。その翌週11月14日は、第七中学校訪問と校長先生との意見交換会のため、教育委員会の会議はございません。11月21日、28日は、いつものとおり、午前10時から教育委員会の会議を予定しております。したがって、11月の教育委員会の会議は11月7日、21日、28日の予定です。

これをもちまして、教育委員会第16回定例会を閉じます。

午後8時35分閉会